甲府市浄化センター脱水ケーキホッパ増設工事
設計図面目録（建築工事）

図面番号	図　面　名　称	縮　尺
≪意匠≫		
A-01	汚泥脱水機棟　特記仕様書-1	―
A-02	汚泥脱水機棟　特記仕様書-2	―
A-03	汚泥脱水機棟　特記仕様書-3	―
A-04	汚泥脱水機棟　特記仕様書-4	―
A-05	汚泥脱水機棟　特記仕様書-5	―
A-06	汚泥脱水機棟　特記仕様書-6	―
A-07	全体配置図	S=1/2000
A-08	汚泥脱水機棟配置図	S=1/200
A-09	汚泥脱水機棟　平面図	S=1/100
A-10	汚泥脱水機棟　立面図	S=1/100
A-11	汚泥脱水機棟　断面図	S=1/100
A-12	汚泥脱水機棟　断面詳細図	S=1/60
A-13	汚泥脱水機棟　階段詳細図	S=1/40
A-14	汚泥脱水機棟　部分詳細図	S=1/20
≪構造≫		
S-01	構造設計特記仕様 その１	―
S-02	構造設計特記仕様 その２	―
S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	―
S-04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	―
S-05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）	―
S-06	鉄骨構造標準図（１）	―
S-07	鉄骨構造標準図（２）	―
S-08	鉄骨柱脚標準図	―
S-09	杭工法設計施工標準	―
S-10	地質調査位置図　土質ボーリング柱状図	―
S-11	伏図-1	S=1/100
S-12	伏図-2	S=1/100
S-13	軸組図-1	S=1/100
S-14	軸組図-2	S=1/100
S-15	軸組図-3	S=1/100

図面番号	図　面　名　称	縮　尺
≪構造≫		
S-16	杭断面リスト　基礎断面リスト	S=1/100
S-17	地中梁断面リスト　床版・腰壁等断面リスト	S=1/60
S-18	鉄骨断面リスト	S=1/60
S-19	２通鉄骨詳細図	S=1/100
≪建築電気設備≫		
AE-01	電気設備　特記仕様書	―
AE-02	汚泥脱水機棟　動力分電版負荷表	―
AE-03	汚泥脱水機棟　電灯分電盤負荷表・照明器具姿図	―
AE-04	汚泥脱水機棟　電灯・コンセント設備　平面図	S=1/100

特記仕様書

1．本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。

2．本特記仕様書における採用事項

①. 項目欄は番号等に ⊙ 印を附したものを適用する。

②. 項目欄に ⊙ 印を附し特記事項欄に ⊙ 印を附していない場合は標準仕様書による。

③. 特記事項は ⊙ 印を附したものを適用する。但し ⊙ 印の付かない場合は※印の附した事項を採用する。

⊙ 印と ⊗ 印を附した場合は共に適用する。

3．本特記仕様書に記載なき事項については下記による。

- 国土交通省大臣官房長官営繕部監修　公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版
- 国土交通省大臣官房長官営繕部監修　建築物解体工事共通仕様書　令和４年版
-

4．その他事項

- 各項目欄の番号(例：1.4 ○○○）は標準仕様書の番号（章番号を除く）に照合する
- 各項目欄の番号(例：表○.○.○、及び図○.○.○)は標準仕様書の各表、及び図番号に該当する項目とする
- 各項目欄の番号(例：1.＊ ○○○）は標準仕様書の番号（章番号を除く）に該当しない項目とする

章	項　目	特記事項
1章 各章共通事項	1.4 工事実績情報登録	(CORINS)への登録：⊙行う　・行わない
	1.＊ 建築基準法の風圧	基準風速：⊙Ｖｏ＝30(m/s)　平成12年建告第1454号第2
	・積雪に関する規定	地表面粗度区分：　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ　・
		積雪区分：　・区域=(27)／α=0.0005／β=6.26／γ=0.12／R=40
		平成12年建告第1445号　別表
	2.4 工事の記録等	工事報告書の書式等：⊙協議により決定　・指定の書式　・任意の書式　・
	3.3 電気保安技術者	技術者の配置：　・配置する（・常駐　・非常駐）　⊙配置しない
	3.5 施工条件	施工順序等の制約：⊙無し　・有り【・現場説明書による　・図示　・　　】
		工事車両の駐車場所：　・図示　⊙現場説明書による　・
		資材、機材置場　　：　・図示　⊙現場説明書による　・
		発生土仮置場　　：　・図示　⊙現場説明書による　・
		その他の施工条件　：　・図示　⊙現場説明書による　・
	3.11 発生材の処理等	発注者への引渡発生材：　※金属類及びPCB含有物　・図示　・
		特別管理産業廃棄物の有無：　・無し　・有り【分類：　・図示　・　　】
		発生材のリサイクル：　・図示　・
	4.＊ 使用材料	・仮設材以外の全ての建築材料（仕上材、下地材、副資材）のホルムアルデヒド放散量は
		ＪＩＳ等の材料規格において放散量が規定されている場合は原則としてＦ☆☆☆☆とする。
		但し使用予定材料にＦ☆☆☆☆が存在しない場合は監督員と協議のうえ決定する。
	5.9 化学物質	濃度測定：⊙未実施　・実施
	の濃度測定	化学物質濃度を下記のとおり測定し、
		厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し報告すること。
		測定対象物質：　・ホルムアルデヒド　・トルエン　・キシレン　・エチルベンゼン
		・スチレン　・図示　・
		測定方法：　・簡易法　・パッシブ型採取機器　・測定バッジ；
		測定対象室：　・図示　・
		測定箇所数：　・図示　・　箇所
		・厚生労働省の標準的測定方法による場合の測定者は、
		環境計量証明事業所として登録を行っている者、
		又は作業環境測定事業所の有機溶剤の登録を行っている者とする。
	7.1 完成時の提出図書	完成図　　：⊙必要　・不要
		保全に関する資料：⊙必要　・不要
		提出部数：　※各２部　・　部
	7.2 完成図	種類：　※表1.7.1　・一般図　・実施設計竣工図一式　・施工承認図　・
		記入内容：　※表1.7.1　・図示　・
		提出要領：⊙データ形式【 ⊙ＣＡＤ ⊙ＰＤＦ　・　　】
		・Ａ３原稿２つ折り製本　・
2章 仮設工事		3．仮設物
	3.1 監督職員事務所等	監督職員事務所の設置：　・必要 ⊙不要
		◎監督員事務所の規模、設備、備品等
		・（ ）号（会議室（　）m52 を含む）
		・（ ）号に会議室（　）m52 を加えた規模
		・専用電話　・兼用FAX　・冷暖房機　・机　・椅子　・書棚　・検査用具　・その他；
		受注者事務所の設置：　・必要　・不要
		◎受注者事務所の規模、設備、備品等
		・（ ）号（会議室（　）m52 を含む）
		・（ ）号に会議室（　）m52 を加えた規模
		・専用電話　・兼用FAX　・冷暖房機　・机　・椅子　・書棚　・検査用具　・その他；
	3.＊ 工事用水	構内既存の施設：⊙利用できない　・利用できる【・有償　・無償】
	3.＊ 工事電力	構内既存の施設：⊙利用できない　・利用できる【・有償　・無償】
		・動力以外利用できる【・有償　・無償】
	3.＊ 仮囲い	種別：　・仮囲い用成型鋼板；H=3.0m,t=1.2mm
		・塗装溶融亜鉛メッキ鋼板波板；H=1.8m,t=0.19mm
		・ｶﾞｰﾄﾞﾌｪﾝｽ；H=1.8m　・A型ﾊﾞﾘｹｰﾄﾞ；H=0.8m

章	項　目	特記事項
2章 仮設工事	3.＊ 仮囲い	塗装：　・単色；片面SOP塗　・模様；
		門扉（施錠付）：
		種別　・ｼｰﾄｹﾞｰﾄ　・ﾊﾟﾈﾙｹﾞｰﾄ　・
		形状：・W3.6m×H4.5m　・
	3.＊ 落下物、飛散物等	・工事現場からの落下物、飛散物による危害防止は下記又は同等以上の措置をする。
	による危害防止	・防護鉄網　・防護ｼｰﾄ　・防護棚　・防音ｼｰﾄ　・防音ﾊﾟﾈﾙ　・その他；
	3.＊ 洗車設備	・洗車ピット（幅3m×長さ5m×厚さ20cm　程度の土間コンクリート、給排水設備共）
		・洗車装置（高圧洗浄装置程度）　・
	3.＊ 仮排水	・既設排水溝や排水管、会所等の撤去時には、
		仮設の排水設備を設け、排水上支障のないようにする。
3章 土工事		2．根切り等
	2.3 埋戻し及び盛土	材料：　・搬入真砂土（砂礫等の混入のないもの）　⊙掘削土（良質なもの）
		種別：　・A種　⊙B種　・C種　・D種
	2.5 建設発生土の処理	・現場説明書による　⊙構外搬出適切処理　・構内指定場所堆積　・構内指定場所敷均し
		・他現場に搬入（　　）　・
		・指定処分地（
4章 地業工事	1.＊ 地業工事	・本章の事項は構造特記仕様書による
		2．試験及び報告書
	2.2 試験杭	試験杭の位置、本数、載荷荷重：　⊙図示　・
	2.3 杭の載荷試験	載荷試験：　・水平試験　・鉛直試験　・
		試験杭の位置、本数、載荷荷重：　・図示　・
		試験方法：　・図示　・
		試験報告書の記載事項等：　・図示　・
	2.4 地盤の載荷試験	載荷試験：　・平板載荷試験　・
		試験の位置、載荷荷重：　・図示　・
		試験方法：　・図示　・
		試験報告書の記載事項等：　・図示　・
		3．既製コンクリート杭地業
	3.1 一般事項	工法の適用：　・ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法　・特定埋設杭工法
	3.3 材　料	材料の強度等による区分：　・
		杭の寸法、継ぎ手の箇所数、杭先端形状：　・図示　・
	3.4 ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法	支持地盤の位置、種類：　・図示　・
		アースオーガーの支持地盤への掘削深さ：　・図示　・
		杭の支持地盤への根入れ深さ：　・図示　・
		杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・
		根固め液の管理試験：　※標準仕様書及び表4.3.1による　・
		杭周固定液の管理試験：　※標準仕様書及び表4.3.1による　・
	3.5 特定埋込杭工法	施工法の種類：　・図示　・
		支持地盤の位置、種類：　・図示　・
		杭の継手の工法：　・ｱｰｸ溶接　・無溶接継手（工法；　　）
		杭頭の処理法：　・図示　・
		4．鋼杭地業
	4.3 材　料	材料の種類：　・SKK400　・SKK490　・SHK400　・SHK490M　⊙図示
	4.5 継　手	杭の継手の工法：　・自動ｱｰｸ溶接　⊙半自動ｱｰｸ溶接　・
		5．場所打ちコンクリート杭地業
	5.1 一般事項	
	5.4 材料その他	帯筋の加工、組立：　・図示　・
		鉄筋の最小かぶり厚さ：　・図示　・60mm　・　mm
		鉄筋かごの補強：　・図示　・
		組立鉄筋の節の継手：　※重ね継手　・図示　・
		セメントの種類：　・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　※高炉ｾﾒﾝﾄB種　・混合ｾﾒﾝﾄ　・図示　・
		コンクリートの設計基準強度：　・Fc=21N/mm2　・Fc=24N/mm2　・図示
		コンクリートの種別：　・Ａ種　・Ｂ種　・図示
		コンクリートのスランプ：　・18cm　・15cm　・図示
		コンクリートの構造体強度補正値(S)：　・図示　※3N/mm　・
		鋼管部分の材料：　※図示　・
	5.5 ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ工法,	支持地盤の位置、種類：　・図示　・
	ﾘﾊﾞｰｽ工法及び	杭孔壁の超音波測定：　・行なわない　・行う
	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ工法	
	5.6 場所打	杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・
	鋼管ｺﾝｸﾘｰﾄ杭工法	支持地盤の位置、種類：　・図示　・
	及び拡底杭工法	杭の水平方向の位置精度：　・図示　・100mm以内　・

章	項　目	特記事項
4章 地業工事		6．砂利、砂、捨てコンクリート地業等
	6.2 材　料	砂地業の種別：　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂　・
		防湿層の材料：　※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ t=0.15mm　・
	6.3 砂利及び砂地業	砂利及び砂地業の厚さ：　・図示　※60mm　・100mm　・120mm　・150mm　・
	6.4 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ地業	捨てコンクリートの厚さ：　・図示　※50mm　・　mm　・120mm　・150mm　・
	6.5 床下防湿層	床下防湿層の適用：　・適用しない　・適用する　・図示
		床下防湿層の範囲：　・図示　・
5章 鉄筋工事	1.＊ 鉄筋工事	・本章の事項は構造特記仕様書による
		2．材　料
	2.1 鉄　筋	鉄筋の種類：　・SR295　・SD295A　・SD295B　・SD345　・SD390　⊙図示　・
	2.2 溶接金網	溶接金網の寸法、径：　⊙φ6x150x150　・φ6x100x100　・φ4.5x50x50　・図示　・
		3．加工及び組立
	3.4 継手及び定着	継手の種類：　⊙重ね継手　⊙ガス圧接継手　・機械継手　・溶接継手
		継手の位置：　⊙図示　・
		柱主筋の重ね継手長さ：　・40d(50d)　⊙図示　・
		梁主筋の重ね継手長さ：　・40d(50d)　⊙図示　・
		耐力壁鉄筋の重ね継手長さ：　※40d(50d)　・図示　・
		先組み工法等の継手の位置：　・図示　・
		鉄筋の定着長さ：　※表5.3.4による　・図示　・
		折曲げ定着の方法：　※図5.3.3による　・図示　・
		機械式定着工法の適用箇所、種類：　・図示　・
	3.5 鉄筋のかぶり厚さ	鉄筋の最小かぶり厚さ：　※表5.3.6による　・図示　・
	間隔	溶接金網の最小かぶり厚さ：　※表5.3.6による　・図示　・
		土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ（軽量コンクリートの場合）：
		⊙図示　・40mm　・50mm　・60mm　・
		塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ：　・図示　・
	3.7 各部配筋	各部の配筋：　⊙図示　・
		4．ガス圧接
	4.10 圧接完了後の	抜取試験の方法：　※超音波探傷試験　・引張試験　・
	圧接部試験	
		5．機械式継手
	5.3 工　法	適用箇所：　・図示　・
		性能・種類等：　・図示　・
		鉄筋相互のあき：　・図示　・
	5.5 施工完了後の	試験は（公社）日本鉄筋継手協会発行の鉄筋継手工事標準仕様書等に基づき検査を行う。
	継手部試験	抜取り１ロットは同一作業班の１日当たりの継手作業箇所とする。（概ね200箇所程度）
		外観検査方法：　・目視及び計測　・図示　・
		超音波探傷検査の対象：
		・抜取り１ロット当り10箇所　・抜き取り１ロット当り5%程度　・
		超音波探傷検査で不合格となった場合の措置：　・全数検査を行い是正する　・図示　・
		6．溶接継手
	6.3 工　法	適用箇所：　・図示　・
		性能・工法等：　・図示　・
		鉄筋相互のあき：　・図示　・
	6.5 施工完了後の	試験は（公社）日本鉄筋継手協会発行の鉄筋継手工事標準仕様書等に基づき検査を行う。
	溶接部試験	抜取り１ロットは同一作業班の１日当たりの継手作業箇所とする。（概ね200箇所程度）
		外観検査方法：　・目視及び計測　・図示　・
		超音波探傷検査の対象：
		・抜取り１ロット当り30箇所　・抜き取り１ロット当り15%程度　・
		超音波探傷検査で不合格となった場合の措置：　・全数検査を行い是正する　・図示　・

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキホッパ増設工事		
図面名称	汚泥脱水機棟 特記仕様書-1		
図面番号	A-01		
縮　尺	—	設計年度	令和 8 年度
甲府市上下水道局			

6章 コンクリート工事

1.＊ ｺﾝｸﾘｰﾄ工事
・本章の事項は構造特記仕様書による

2．コンクリートの種類及び品質

2.1 ｺﾝｸﾘｰﾄの種類
コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類
気乾単位容積質量による種類： ・軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ（下表による） ・図示

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	備 考
・ﾙｰﾌﾊﾞﾙｺﾆｰ防水押え	・18 ・21	
・屋上防水押え	・18 ・21	
・浴室防水押え	・18 ・21	

コンクリートの要求性能等による種類： ・図示 ・
コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類
特殊な要求性能のコンクリートの適用： ・図示 ・
大臣認定を受けたコンクリートの適用： ・図示 ・

2.2 ｺﾝｸﾘｰﾄの強度
気乾単位容積質量による種類： ◔普通ｺﾝｸﾘｰﾄ（下表による） ・図示

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	備 考
⊙構造躯体（基礎～1階）	24	
・構造躯体（基礎～R階）	24	
・構造躯体（ 階～ 階）	21	
⊙捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	⊙18 ・21	

コンクリートの要求性能等による種類： ・図示 ・

2.4 ﾜｰｶﾋﾞﾘﾃｨｰ及びｽﾗﾝﾌﾟ
スランプ： ※表6.2.2による ・図示 ・

2.5 構造体ｺﾝｸﾘｰﾄの仕上り
打放し仕上げの種別（合板せき板を用いる場合）

施工部位	種別	備 考
・化粧打放し部	A種	
⊙打放し補修下地部	B種	垂直面B種、見上面C種
・基礎部	C種	

コンクリートの仕上りの平坦さ： ・a種 ・b種 ・c種

3．コンクリートの材料及び調合

3.1 ｺﾝｸﾘｰﾄの材料
セメントの種類：
※普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄA種 ※混合ｾﾒﾝﾄA種 ・高炉ｾﾒﾝﾄB種 ・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種
高炉セメントＢ種の適用箇所： ・図示 ・基礎 ・地中梁 ・
フライアッシュセメントＢ種の適用箇所： ・図示 ・
骨材の種類： ※JIS A 5308(付属書A)の骨材 ・規定外の骨材：
細骨材の種類： ※JIS A 5308(付属書A)の細骨材 ・規定外の細骨材：
骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・B
混和剤： ・AE剤 ・AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・
混和材： ・ﾌﾗｲｱｯｼｭ ・高炉ｽﾗｸﾞ微粉末 ・膨張剤 ・

3.2 ｺﾝｸﾘｰﾄの調合
混和材料の使用方法等： ・図示 ※製造所資料に基づき承諾
コンクリートの構造体強度補正値(S)： ※表6.3.2による ・図示 ・

6．コンクリートの工事現場内運搬、打込み及び締固め

6.4 打継ぎ
打継ぎの位置： ※梁、ｽﾗﾌﾞ：ｽﾊﾟﾝの中央(1/4) ※柱、壁;梁、基礎の上端 ⊙図示
打継ぎ目地の見付寸法： ・図示 ・25mm ⊙20mm ・15mm ・

7．養 生

7.2 湿潤養生
普通エコセメントの養生期間： ・5日 ・7日 ・

8．型 枠

8.1 型枠一般
外部に面する打放し仕上げの増打厚さ： ・25mm ⊙20mm ・15mm ・
ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法： ・下表による ⊙図示 ・

施工部位	位置	形状	寸法(見付x深さ)
・片持ちスラブ	・図示	・両転び ・片転び	20mmx15mm
・外部開口部廻り	・図示	・両転び ・片転び	15mmx12mm
・壁タイル張り仕上面	・図示	・両転び ・片転び	15mmx10mm

スリーブの材種等等： ・鋼管 ・VP管 ・溶融亜鉛めっき鋼板 ・つば付き鋼管 ⊙ 図示

8.2 材 料
型枠の材料等： ⊙下表による ・図示 ・

種類	種別・厚さ	材質
⊙合板	※「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板のJAS」・12mm	※複 合
	・「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材
・床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ		・針葉材

鋼材の形状及び寸法： ・図示 ・
断熱材を兼用した型枠材： ・使用する【使用箇所： ・図示 ・ 】
ＭＣＲ工法： ・適用する【適用箇所： ・図示 ・ 】
スリーブ： ・ 図示
・硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管 ・溶融亜鉛めっき鋼管 ・鋼管 ・つば付き鋼管 ・鋼管 ・紙ﾁｭｰﾌﾞ

１０．軽量コンクリート

10.1 一般事項
土に接する軽量コンクリートの使用： ・使用する【使用箇所： ・図示 ・ 】
水に接する軽量コンクリートの使用： ・使用する【使用箇所： ・図示 ・ 】
軽量コンクリート種類： ・下表による ・図示 ・

施工部位	種類	備 考
・ﾙｰﾌﾊﾞﾙｺﾆｰ防水押え	・1種 ・2種	
・屋上防水押え	・1種 ・2種	
・浴室防水押え	・1種 ・2種	

10.2 種類及び品質
所要スランプ： ※21cm以下 ・18cm以下 ・図示 ・

１１．寒中コンクリート

11.1 一般事項
適用期間： ・図示 ・１１月 日～４月 日まで

11.2 材料及び調合
積算温度の採用： ・採用する ・採用しない

１２．暑中コンクリート

12.2 材料及び調合
構造体強度補正値(S)： ※6 N/mm ・

１３．マスコンクリート

13.1 一般事項
適用箇所： ・図示 ・

13.2 材料及び調合
ｾﾒﾝﾄの種類： ・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・高炉ｾﾒﾝﾄB種 ・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種 ・混合ｾﾒﾝﾄ
混合セメントの混和材： ・ﾌﾗｲｱｯｼｭ【・Ⅰ種 ・Ⅱ種】 ・高炉ｽﾗｸﾞ微粉末(4000)
所要スランプ： ・8cm以下 ・12cm以下 ※15cm以下 ・

１４．無筋コンクリート

14.1 一般事項
コンクリートの種類： ※普通コンクリート ・
適用箇所： ※標準仕様書による ・下表による ・図示

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	備 考
・ﾙｰﾌﾊﾞﾙｺﾆｰ防水押え	・18 ・21	
・浴室防水押え	・18 ・21	
・屋上防水押え	・18 ・21	

１５．流動化コンクリート

15.1 一般事項
流動化コンクリートの適用： ・適用する【使用箇所： ・図示 ・ 】

7章 鉄骨工事

1.＊ 鉄骨工事
・本章の事項は構造特記仕様書による

１．共通事項

1.3 鉄骨製作工場
製作工場のグレードは下記同等以上で大臣認定された工場とする：
○
施工管理技術者の配置： ・する ・しない

２．材 料

2.1 鋼 材
鋼材の材質： ・下表による ⊙図示 ・

施工部位	材質（種類の記号）	備 考
・構造躯体	SS400／STKR400／BCR295	
・構造躯体（ 階～ 階）	SN400A SN400C	
・構造躯体（ 階～ 階）	SM490A SSC400	

2.2 高力ﾎﾞﾙﾄ
種類： ・ﾄﾙｼｱ型高力ﾎﾞﾙﾄ2種(S10T) ・JISの高力ﾎﾞﾙﾄ2種(F10T)
⊙溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄ1種(F8T相当)
高力ボルトの径： ⊙図示 ・

2.3 普通ﾎﾞﾙﾄ
普通ボルトの材料等： ※表7.2.3による ・
普通ボルトの径： ⊙図示 ・

2.4 ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
構造用アンカーボルトの材質： ⊙図示 ・SNR400A ・SNR400B ・SNR490B
建方用アンカーボルトの材質： ・図示 ・SS400 ・SS490 ・SS540
ねじの種類、等級の規格及び仕上げの程度： ※表7.2.3による ・

2.5 溶接材料
表7.2.4以外の溶接材料： ・図示 ・

2.6 ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ
種類： ※建築用ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ（胴；割枠式、ﾎﾞﾙﾄ；羽子板ﾎﾞﾙﾄ） ・図示 ・
ねじの呼び等： ・図示 ・

2.7 床構造用のﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ
構造床として使用するデッキプレートの材質、形状、寸法等： ・図示 ・
合成スラブとして使用するデッキプレートの材質、形状、寸法等： ・図示 ・
その他のデッキプレートの材質、形状、寸法等： ・図示 ・

2.8 ｽﾀｯﾄﾞ
スタッドの規格、形状、寸法等： ・下表による ・図示 ・

施工部位	規格番号	形状、寸法	備 考
・2階床より上部各階床ｽﾗﾌﾞ	JIS B 1198		・形状、寸法は図示
・屋根ｽﾗﾌﾞ			

2.9 柱底均しﾓﾙﾀﾙ
柱底均しモルタル： ※無収縮モルタル ・図示 ・
無収縮モルタルの調合： ※標準仕様書による ・図示 ・

2.10 材料試験等
引張りを受ける鋼板の試験： ・適用する ・適用しない ・図示 ・

３．工作一般

3.2 工作図
現寸図は必要に応じて作成する
高力ボルト、普通ボルト、アンカーボルトのヘリ、ピッチ、ゲージ等：
⊙鉄骨工作標準図による又、同図面に記載なき事項は国土交通大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準及び同解説」による鉄骨設計基準図による。
・図示 ・

3.8 ﾎﾞﾙﾄ孔
普通ボルトの孔径： ※ネジの呼び径+1.0mm ・図示 ・

3.10 仮 組
仮組の実施： ・行わない ・行う

４．高力ボルト接合

4.2 摩擦面の性能及び処理
すべり係数試験の実施： ⊙行わない ・行う
試験の方法、試験片の摩擦面の状態： ・図示 ・

4.7 締付け
ﾎﾞﾙﾄ長さがねじの呼びの５倍をJIS型ﾎﾞﾙﾄのﾅｯﾄ回転法の回転量： ・120° ・

６．溶接接合

6.3 溶接*技能資格者**
溶接技能者の技量付加試験： ⊙行わない ・行う

6.4 溶接の準備
開先の形状： ⊙図示 ・

6.7 溶接施工
エンドタブの切除の有無： ・無し ⊙有り【切除の適用箇所： ・図示 ・ 】
スカラップの形状： ・図示 ・

6.12 溶接部の試験
溶接部の外観試験： ※告示第1464号第二号による試験;
※JASS 6 附則6(付表3「溶接」);
完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験： ・適用する ・適用しない ⊙構造図による
◎工場溶接の場合
製作工場の社内検査： ・行わない ※行う（全数検査を行い試験結果報告書を提出）
第三者機関による検査： ※行う ・行わない
ＡＯＱＬ： ・2.5% ※4.0%
検査水準： ・第1水準 ・第2水準 ・第3水準 ・第4水準 ・第5水準 ※第6水準
◎工事現場溶接の場合
第三者機関による検査： ※行う ・行わない
ＡＯＱＬ： ・2.5% ※4.0%

７．スタッド溶接及びデッキプレートの溶接

7.8 ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄの溶接
デッキプレートと鉄骨の溶接方法： ・図示 ・

８．錆止め塗装

8.2 塗料の範囲
耐火被覆材の接する面の塗装： ・行う ・行わない

8.4 塗料種別
耐火被覆材の接する面以外の塗装範囲： ※標準仕様書による ・図示
ＳＲＣ造の鋼製スリーブ（鉄骨に溶接されたもの）の内面：
・図示 ・標準仕様書 表18.3.1【※A種 ・B種 ・C種】 ・

９．耐火被覆

9.2 耐火被覆の種類等
種類、材料、工法： ・図示 ・

9.3 耐火被覆の性能等
耐火性能、品質： ・図示 ・

１０．工事現場施工

10.3 ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの設置等
構造用アンカーボルトの適用： ⊙適用する ・適用しない
建方用アンカーボルトの適用： ・適用する ⊙適用しない
構造用アンカーボルトの形状及び寸法： ⊙図示 ・
構造用アンカーフレームの形状及び寸法： ⊙図示 ・
アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別： ・A種 ・B種 ・C種
柱底均しモルタルの厚さ： ⊙図示 ・
柱底均しモルタルの工法の種別： ※A種 ・B種

１１．軽量形鋼

11.1 施 工
ボルトの接合方法： ⊙図示 ・

１２．溶融亜鉛めっき工法

12.5 溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄ接合
摩擦面の処理： ⊙ﾌﾞﾗｽﾄ処理 ・りん酸塩処理等
りん酸塩処理等の場合の摩擦面のすべり耐力等の確認方法： ・図示 ・

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキホッパ増設工事		
図面名称	汚泥脱水機棟 特記仕様書-2		
図面番号	A-02		
縮 尺	—	設計年度	令和 8 年度
甲府市上下水道局			

章	項　目	特記事項
8章 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル及び押出成形セメント板工事		２．補強コンクリートブロック造
	2.2 材　料	ブロックの種類　：　▪空洞ﾌﾞﾛｯｸ16　▪空洞ﾌﾞﾛｯｸ16-W
	2.3 ﾓﾙﾀﾙの調合	モルタルの調合　：　※表8.2.1による　▪
	2.5 鉄筋の加工及び組立	各部の配筋　：　▪図示　▪
	2.8 ﾓﾙﾀﾙ及びｺﾝｸﾘｰﾄの充填	開口部両側のモルタルの充填範囲：　▪ﾌﾞﾛｯｸ幅200mmまで　▪ 開口部両側のコンクリートの充填範囲：　▪ﾌﾞﾛｯｸ幅200mmまで　▪
		３．コンクリートブロック帳壁及び塀
	3.2 材　料	ブロックの種類：　※表8.3.1による　▪図示　▪化粧ﾌﾞﾛｯｸ ブロックの厚さ：　▪図示　▪
	3.4 鉄筋の加工及び組立	各部の配筋　：　▪図示　▪ 鉄筋の継手：　▪重ね継手　▪図示　▪ 鉄筋の定着：　▪25d　▪40d　▪図示　▪ 鉄筋の折り曲げ形状：　▪図示　▪
		４．ＡＬＣパネル
	4.2 材　料	種　類 / 単位荷重(N/m2) / 厚さ(mm) / 長さ(mm) ▪屋根用 / ▪1180　▪1960 / ▪100　▪ / ▪図示　▪ ▪床　用 / ▪2350　▪3530 / ▪100　▪150 / ▪図示　▪ ▪外壁用 / ▪980　▪ / ▪100　▪ / ▪図示　▪ ▪間仕切用① / / ▪100　▪ / ▪図示　▪ ▪間仕切用② / / ▪100　▪ / ▪図示　▪
	4.2 材　料	耐火目地材：　▪ｾﾗﾐｯｸﾌｧｲﾊﾞｰﾌﾞﾗﾝｹｯﾄ　▪ﾛｯｸｳｰﾙ保温板　▪
	4.3 外壁ﾊﾟﾈﾙ工法	取付け工法種別：　▪A種　▪B種 パネル幅の最小限度：　※300mm　▪400mm　▪ 長辺の目地巾：　▪図示　▪8mm　▪10mm　▪ 短辺の目地巾：　▪図示　▪15mm　▪20mm　▪ 伸縮調整目地巾：　▪図示　▪10mm　▪15mm　▪20mm 耐火目地材　：　▪有　▪無　▪
	4.4 間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ工法	取付け工法種別：　▪C種　▪D種　▪E種 耐震設計用水平震度：　▪K=1.0　▪K=0.6　▪K=0.4　▪図示
	5.5 溝掘り及び開口部の措置	
		５．押出成形セメント板（ＥＣＰ）
	5.2 材　料	使用箇所：　▪外壁用 表面形状：　▪ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ　▪ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ　▪ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ 厚み寸法：　▪50mm　▪60mm　▪ 使用箇所：　▪間仕切壁用 表面形状：　▪ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ　▪ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ　▪ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ 厚み寸法：　▪50mm　▪60mm　▪
	5.3 外壁ﾊﾟﾈﾙ工法	取付け工法種別：　▪A種　▪B種 パネル相互間目地幅：　▪15mm(短辺)8mm(長辺)以上　▪ 耐風圧性能：　▪Fb=17.6(N/mm)以上　▪図示　▪ 耐震性能：　▪層間変位量1/100に対し破損、脱落がないこと　▪ 耐火構造以外の目地及び隙間の処理：　※製造所仕様による　▪
	5.4 間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ工法	取付け工法種別：　▪B種　▪C種 耐震性能：　▪層間変位量1/100に対し破損、脱落がないこと　▪ パネルの開口部の限度：　▪製造所基準による　▪短辺；　mm x 長辺；　mm以下 パネルの欠込みの限度：　▪製造所基準による　▪短辺；　mm x 長辺；　mm以下

章	項　目	特記事項
9章 防水工事	1.＊ 防水工事の保証書の提出、保証年限	▪保証書（請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証）は各２通提出すること。 ▪防水施工者は、防水材料製造所指定の施工者とし、監督員の承諾を受ける。

保証書提出工事	保証箇所	保証年限
▪ｱｽﾌｧﾙﾄ防水	屋根（保護用）	※10年　▪　年
	屋根（露出用）	※10年　▪　年
	浴　室▪便　所	※10年　▪　年
	地下室▪貯水槽	※10年　▪　年
▪改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水		※10年　▪　年
		※10年　▪　年
▪合成高分子ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ防水		※10年　▪　年
		※10年　▪　年
▪塗膜防水		※10年　▪　年
		※10年　▪　年

水張り試験：　▪行う　▪行わない
試験箇所：　▪３階屋上部分、階段室２（Ｒ階部分）
試験方法：　※ドレイン廻りをルーフィング、ウエス等で仮蓋をし、
防水層の立上り端部を越えないように水を張り、
２４時間以上そのままにしておいた後、周辺や階下への漏れの有無を確認する。

	2.2 材　料	２．アスファルト防水 改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ： ※表9.2.3～9.2.8による　▪図示　▪ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ： ※表9.2.5～9.2.8による　▪図示　▪ ◎屋根保護防水断熱工法の断熱材 厚さ：　▪35mm　▪25mm　▪図示 ◎屋根露出防水断熱工法の断熱材 種類：　▪図示　▪ 厚さ：　▪50mm　▪35mm　▪図示 ◎絶縁用シート 材質（保護防水工法）　：　※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ；t=0.15mm以上　▪ 材質（保護防水断熱工法）：　※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ(70g/㎡程度)　▪
	2.3 防水層の種別及び工程	防水層立上り部の保護の種類： ▪乾式保護　▪湿式保護【▪図示　▪普通れんが(JIS R1250)　▪ﾒﾀﾙﾗｽ　▪　】

種　類	種　別	施工箇所
▪保護防水密着	▪A-1　▪A-2　▪A-3	屋根
	▪AI-1　▪AI-2　▪AI-3	屋根
▪保護防水絶縁	▪B-1　▪B-2　▪BI-1　▪BI-2	
▪露出防水絶縁	▪D-1　▪D-2　▪DI-1　▪DI-2	
▪屋内防水密着	▪E-1　▪E-2	
▪		

	2.4 施　工	◎防水層下地 下地モルタル塗り：　▪適用する　▪適用しない 適用箇所； 立上り部の下地：　コンクリート打放し（表6.2.4【　▪A種　※B種　▪C種　】）　▪ ◎ルーフィング類の張り付け ルーフドレン廻りの断熱材の張仕舞い位置：　▪製造ﾒｰｶｰ推奨による　▪図示
	2.5 保護層等の施工	平場の保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ：　※80mm（鏝仕上）　※60mm（ﾀｲﾙ仕上等）（） 立上がり部の保護工法：　▪ｺﾝｸﾘｰﾄ押え　▪ﾓﾙﾀﾙ押え　▪乾式保護材　▪ｱﾙﾐ水切り金物押え ▪普通れんが押え(半枚積み、目地10mm)　▪化粧ﾚﾝｶﾞ積み押え 屋上排水溝　：　▪適用　▪適用しない 屋内防水部分の保護層：　▪設ける　▪設けない
		３．改質アスファルトシート防水
	3.2 材　料	改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ： ※表9.3.1～9.3.3による　▪図示　▪ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ： 押え金物の材質、形状等：　※AL製 L-30x15x2.0　▪図示　▪ ◎屋根露出防水絶縁断熱工法の断熱材 種類：　▪硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種1号　▪硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ2種2号 ▪図示　▪ 厚さ：　▪50mm　▪35mm　▪図示 ◎脱気装置 種　類　：　※製造所指定　▪ 設置数量：　※製造所指定　▪
	3.3 防水層の種別及び工程	

種　類	種　別	施工箇所
▪露出防水密着	▪AS-T1　▪AS-T2	
	▪AS-T3　▪AS-T4　▪AS-J1	
▪露出防水絶縁	▪ASI-T1　▪ASI-J1	

		仕上塗装の種類：　▪製造所標準仕様による　▪遮熱塗料　▪ 仕上塗装の使用量：　※製造所標準仕様による　▪

章	項　目	特記事項
9章 防水工事		４．合成高分子ルーフィングシート防水
	4.2 材　料	種類：　▪加流ｺﾞﾑ系　▪塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系　▪熱可塑性ｴﾗｽﾄﾏｰ系 ◎固定金具 材質：　※防錆処理鋼板　※ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　※樹脂被覆鋼板 厚さ：　▪0.4mm以上　▪0.8mm以上　▪ ◎断熱工法の断熱材 材質：　▪図示　▪ 厚さ：　▪50mm　▪35mm　▪図示 絶縁シートの種類及び厚さ：　※標準仕様書表9.4.1及び9.4.2による　▪図示　▪ ◎脱気装置 種　類　：　※製造所指定　▪ 設置数量：　※製造所指定　▪

種　別	シートの厚さ(mm)	施工箇所
▪S-F1　▪S-F2	※1.2　※2.0　▪	
▪S-M1　▪S-M2	※1.5　※1.2　▪	
▪SI-F1　▪SI-F2	※1.2　※2.0　▪	
▪SI-M1	※1.5　▪	
▪SI-M2	※1.5(立上り共)　▪	
▪S-C1	※1.0　▪	

	4.3 防水層の種別及び工程	仕上塗装の種類：　▪製造所標準仕様による　▪遮熱塗料　▪ 仕上塗装の使用量：　※製造所標準仕様による　▪ S-C1工法のモルタル塗り厚：　▪20mm　▪
	4.4 施　工	接着工法の下地目地処理(PC板)：　▪図示　▪絶縁テープ:50mm張り　▪ S-F1,SI-F1工法のPC板の入隅の増張り：　▪増張り用ｼｰﾄ(W=200mm)張り　▪ 機械的固定工法：　※製造所仕様による　▪ 立上り部の保護モルタルの厚さ：　※7mm以下　▪図示　▪
		５．塗膜防水

種　類	種　別	施工箇所
▪ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系	▪X-1　▪X-2	庇、ﾁｬﾝﾊﾞｰ
▪ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄ系	▪Y-1　▪Y-2	
▪ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系		

	5.3 防水層の種別及び工程	仕上塗装の種類：　▪製造所標準仕様による　▪遮熱塗料　▪ 仕上塗装の使用量：　※製造所標準仕様による　▪ ◎脱気装置 種　類　：　※製造所指定　▪ 設置数量：　※製造所指定　▪ 保護層：　▪設置する　▪設置しない
		６．ケイ酸質系塗布防水

部　位	種　別	施工箇所
▪背面水圧側	▪C-SUI　▪C-SUP	▪図示　▪地下外壁　▪地下床　▪ﾋﾟｯﾄ
▪水圧側	▪C-SUI　▪C-SUP	▪図示　▪地下外壁　▪水槽　▪ﾋﾟｯﾄ

	6.1 一般事項	
	6.3 防水層の種別及び工程	
	6.4 施　工	防水層壁下地：　※表6.2.4；B種　▪表6.2.4；A種　▪ 防水層天井下地：　※表6.2.4；B種　▪表6.2.4；A種　▪
		７．シーリング
	1.＊ 保証年限	シーリング保証書：　▪提出する　⊙提出しない ▪保証書（請負人、材料製造所、シーリング施工者連帯保証）は各２通提出すること。
	1.2 材　料	ノンブリードタイプシーリング材の適用：　※使用する　▪使用しない 施工箇所：　▪ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞで仕上げありの部位　▪

施工箇所	シーリング材の種類	目地寸法(mm)	保証年限
▪各階打継部分	▪MS-1　▪MS-2　▪SR-1	15(W)x10(D)	3　年
▪タイル伸縮目地	▪PU-1　▪PU-2　▪PS-2	15(W)x10(D)	年
▪ガラス留付け	⊙SR-1	図示	年
▪ALC	⊙PU-2	図示	年
⊙打継目地、誘発目地	⊙PU-2	図示	

	1.3 目地寸法	目地寸法：　※標準仕様書による　▪上表による　⊙図示　▪ 仕上の有無：　⊙仕上げあり【　▪ALC　⊙打継ぎ目地　⊙誘発目地　▪ECP　▪図示　】 ▪仕上げなし【　▪ALC　▪打継ぎ目地　▪誘発目地　▪ECP　▪図示　】
	7.5 ｼｰﾘﾝｸﾞ材の試験	※簡易接着性試験　▪引張接着性試験

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキポッパ増設工事		
図面名称	汚泥脱水機械 特記仕様書-3		
図面番号	A-03		
縮　尺	—	設計年度	令和 8 年度
甲府市上下水道局			

12章 木工事

◎造作用単板積層材

◇ＪＡＳによる造作用単板積層材：　▪下表による（寸法は図示）　▪図示　▪

使用部位	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理		備　考
	仕上有	1等	▪有	▪無	天然木化粧加工
	仕上有	2等	▪有	▪無	塗装加工
	未仕上	3等	▪有	▪無	

◇ＪＡＳ以外の造作用単板積層材：　▪下表による（寸法は図示）　▪図示　▪

使用部位	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理		含水率	備　考
	仕上有	1等	▪有	▪無	※14%	天然木化粧加工
	仕上有	2等	▪有	▪無		塗装加工
	未仕上	3等	▪有	▪無		

◎直交集成板

◇ＪＡＳによる直交集成板

使用部位	曲げ強度	種別	接着性能	樹種区分	備　考
	Mx120-3-3	A種構成	使用環境A	S1	
	Mx 60-9-9	B種構成	使用環境B	S2	
	S120-3-3		使用環境C	S3	
	S 30-9-9			S4	

◎合板等

◇ＪＡＳによる普通合板

使用部位	表板樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	等級・処理・寸法等
	ﾗﾜﾝ	※5.5	※1類	※2等	▪図示
	ｼﾅ	9	2類	1等	
		12		※C-D	

◇ＪＡＳによる構造用合板

使用部位	表板樹種名	等級	接着の程度	板面の品質	備　考
外壁・内壁耐力壁	針葉樹	1級	特類	A-B	F☆☆☆☆/防虫処理材
各室床下地捨て張り	ｼﾅ	2級	1類	B-C	
	ﾅﾗ			D-D	

◇ＪＡＳによる化粧ばり構造用合板

使用部位	品　名	厚さ(mm)	表板樹種名	接着の程度	備　考
		9		特類	F☆☆☆☆/防虫処理材
		12		1類	F☆☆☆☆/防虫未処理

◇ＪＡＳによる天然木化粧合板

使用部位	品　名	厚さ(mm)	単板樹種名	接着の程度	備　考
		12		1類	F☆☆☆☆/防虫処理材
		15		2類	F☆☆☆☆/防虫未処理

◇ＪＡＳによる特殊加工化粧合板

使用部位	品　名	厚さ(mm)	表面性能ﾀｲﾌﾟ	接着の程度	備　考
		12	▪F ▪FW	1類	ｵｰﾊﾞｰﾚｲ/防虫処理材
		15	▪W ▪SW	2類	ﾌﾟﾘﾝﾄ/防虫未処理

◇パーティクルボード

使用部位	厚さ(mm)	曲げの区分	接着の区分	難燃性区分	備　考
	※16			※13P/M	

◇ＪＡＳによる構造用パネル

使用部位	品　名	厚さ(mm)	曲げ等級	備　考
		図示	▪1級 ▪2級	ｵｰﾊﾞｰﾚｲ/防虫処理材
		25	▪3級 ▪4級	▪ﾌﾟﾘﾝﾄ ▪塗装/防虫未処理

◇ミディアムデンシティーファイバーボード(ＭＤＦ)

使用部位	厚さ(mm)	表面状態区分	曲げの区分	接着の区分	難燃性区分	備　考
		▪RN ▪RS	▪30 ▪25	U	難燃2	
		▪DV ▪DO ▪DC	▪15 ▪5	M	難燃3	
				P		

2.2 接合具等　諸金物の材質等：　※表12.2.4～表12.2.6による　▪図示

2.3 木ﾚﾝｶﾞ　接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：　※F☆☆☆☆　▪F☆☆☆　▪

2.＊ 堅　木　樹種：　▪ﾅﾗ　▪ｹﾔｷ　▪ｻｸﾗ　▪ｸﾘ　▪ｼｵｼﾞ　▪
使用箇所：　▪

2.＊ 銘　木　種別：　▪真物　▪貼物　樹種：　▪　使用箇所：　▪

12章 木工事

3．防腐・防蟻・防虫処理

3.1 防腐・防蟻処理　◎薬剤の加圧注入による処理

処理木材（部位）	性能区分	備　考
製材	▪K2 ▪K3 ▪K4	
合板	▪K2 ▪K3 ▪K4	
集成材		

薬剤の塗布による防腐・防蟻処理の方法：　※標準仕様書による　▪
接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理の方法：　▪図示　▪

4．鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組

4.1 木　材　間仕切軸組の木材の樹種：　※杉　※松　▪
土間スラブ以外の床組木材の樹種：　※杉　※松　▪
土間スラブ上の床組木材の樹種：　※桧　※保存処理木材　▪

5．窓、出入口その他

5.1 木　材　吊元枠、水掛りの下枠、敷居の木材の樹種：　※桧　▪
上記以外の木材の樹種：　※杉　※松　▪

6．床板張り

6.1 木　材　縁甲板、上がり框の木材の樹種：　※桧　▪

7．壁及び天井下地

7.1 木　材　木材の樹種：　※杉　※松　▪

13章 屋根及びとい工事

2．長尺金属板葺

2.2 材　料　材種：　※塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑｰ亜鉛合金めっき鋼板材種
▪塗装ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　▪塗装溶融亜鉛めっき鋼板
▪
板厚：　▪0.4mm　▪0.6mm　▪0.8mm　▪
下葺材料：　▪ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940　▪
▪改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ【▪一般ﾀｲﾌﾟ　▪複層基材ﾀｲﾌﾟ　▪粘着層付ﾀｲﾌﾟ】

2.3 工　法　屋根葺形式：　▪心木なし瓦棒葺　▪立はぜ葺　▪平葺　▪図示　▪
雪止め：　▪設置する　▪設置しない

3．折板葺

3.2 材　料　材種：　※塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑｰ亜鉛合金めっき鋼板材種
▪塗装ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　▪塗装溶融亜鉛めっき鋼板
▪
板厚(mm)：　▪1.0　▪0.8　▪0.6　▪
山高(mm)：　▪90　▪150　▪180　▪
屋内のタイトフレームの材料及び表面処理：　▪製造所の仕様による　▪図示
軒先面戸板：　▪有　▪無
断熱材張り：　▪無　▪有（材種等；　）

3.3 工　法　建築基準法の基づく風圧力に対応した工法：　▪構造計算により安全性が確認された工法
▪鋼板製屋根構法標準（SSR）による工法
形式による区分：　▪重ね形又ははぜ締め形　▪
けらば納め：　※けらば包みによる工法　▪図示　▪

4．粘土瓦葺

4.2 材　料　種類　：　▪和瓦　▪洋瓦　▪
区分　：　▪釉薬瓦　▪塩焼瓦
大きさ：　▪53形　▪64形　▪
産地　：　▪石州　▪淡路　▪三州　▪
役物瓦：　▪図示　▪
▪軒先瓦（　▪棟瓦（
▪鬼瓦（　▪隅鬼瓦（
雪止瓦：　▪使用する　▪使用しない
凍害試験(JIS A 5208)の実施：　▪行う　※行わない
瓦桟の材質：　※杉又は桧　▪杉　▪桧　▪
瓦桟の寸法：　※21mm(W)x15mm(H)　▪30mm(W)x18mm(H)　▪
棟補強金物の材質(形状、寸法等は図示)：　▪ｽﾃﾝﾚｽ製　▪溶融亜鉛ﾒｯｷ製　▪

4.3 工　法　瓦の緊結方法：
※告示第109号による緊結　▪告示第1485号の構造計算方法により安全性が確認された緊結
瓦の緊結用釘等の有効長さ：　▪野地板の厚さの1/2以上に達する長さ　▪野地板を貫通する長さ
瓦桟木の留付け工法：　※「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」に準拠した工法　▪
棟の工法：　▪図示　▪7寸丸伏せ棟　▪F形用冠瓦伏せ棟　▪のし積み棟
面戸、雀口等の仕上げ：　▪しっくい塗り　▪ﾓﾙﾀﾙ塗り　▪図示　▪

5．と　い

5.2 材　料　軒どいの材種：　▪ｱｽﾌｧﾙﾄ被覆鋼板　▪耐候性被覆鋼板
縦どいの材種：　▪配管用鋼管　◉硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管【◉ｶﾗｰ　▪　】

13章 屋根及びとい工事

5.2 材　料　掃除口：　◉有　▪無
飾り桝：　▪塩ビ製　▪銅板製　▪
とい受け金物の材種：　※表13.5.2による溶融亜鉛めっき製　▪ｽﾃﾝﾚｽ製　▪
とい受け金物の取付間隔：　※表13.5.2による　▪図示　▪
ルーフドレイン：　▪ｽﾃﾝﾚｽ製　◉鋳鉄製　▪ｱﾙﾐﾆｳﾑ製

5.3 工　法　鋼管製といの防露巻き：　※行う(表13.5.4による)　▪行わない　▪図示

14章 金属工事

2．表面処理

2.1 ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の表面処理　表面処理：　▪下表による　※標準仕様書による

種　別	表面処理	施工箇所
▪AB-1種	標準仕様書による	
▪BB-2種	標準仕様書による	
▪BA-1種	標準仕様書による	
▪C種	▪ｱｸﾘﾙ樹脂焼付塗装	
	▪ﾌｯ素樹脂焼付塗装	

陽極酸化皮膜の着色方法：
※二次電解着色　▪ｱﾙｶﾘ樹脂焼付塗装　▪静電塗装　▪ふっ素樹脂焼付塗装

2.2 鉄鋼の亜鉛めっき

表面処理方法	種　別	施工箇所
◉溶融亜鉛めっき	◉A種 ◉B種 ◉C種	◉屋外階段各部 ◉外部鉄鋼
▪電気亜鉛めっき	▪D種 ▪E種 ▪F種	

4．軽量鉄骨天井下地

4.2 材　料　種類：　※表14.4.1による　▪

4.3 形状及び寸法　屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔：　▪≒@900mm　▪
屋外の野縁の間隔：　※標準仕様書表14.4.2による　▪

4.4 工　法　吊ボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法：　▪図示　▪
天井ふところが3mを超える場合の補強方法：　▪図示　▪
屋外の軒天井、ピロティー天井の補強：
▪図示　▪吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。
▪天井内配管類及びダクト等により、野縁受けを吊れない場合には、
野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。

5．軽量鉄骨壁下地

5.3 形状及び寸法　種類：　▪50形　▪65形　▪90形　▪100形　▪

5.4 工　法　開口部の補強：　※標準仕様書による　▪図示　▪

6．金属成形板張り

6.2 材　料

材　種	▪ｱﾙﾐﾆｳﾑ	▪ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板
製　法	▪押出し　▪ﾌﾟﾚｽ　▪ﾛｰﾙ	▪押出し　▪ﾌﾟﾚｽ　▪ﾛｰﾙ
表面処理		▪55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ亜鉛合金めっき処理

6.3 工　法　取付け用下地：　※標準仕様書による　▪

7．アルミニウム製笠木

7.2 材　料　種類：　▪250形　▪300形　▪350形　▪図示
表面処理：　▪A-1種　▪A-2種　▪　BB-2種

7.3 工　法　耐風圧、耐積雪対応固定方法：　▪製造ﾒｰｶｰ仕様による　▪

15章 左官工事

2．下　地

2.4 ラス系下地　通気工法ラス系下地の種類：　▪二層下地　▪単層下地　▪図示
直張り工法ラス系下地の種類：　▪ﾗｽﾓﾙﾀﾙ下地　▪ﾗｽｼｰﾄﾓﾙﾀﾙ下地　▪図示
ラス下地板の指定：　▪耐力壁仕様　▪防火構造　▪準耐火構造　▪図示
換気口部の措置：　※「公共建築木造工事標準仕様書/11.4.3施工」による　▪図示
ラスシート下地の指定：　▪耐力壁　▪図示

2.5 せっこうボード その他のボード下地

種　類	厚さ(mm)	施工箇所
▪GB-R	12.5	
▪GB-F	15	
▪木毛ｾﾒﾝﾄ板	20	
▪硬質木片ｾﾒﾝﾄ板	18	

2.6 こまい下地　こまい下地の指定：　▪耐力壁　▪図示

2.7 木ずり下地　木ずり用小幅板の樹種：　※杉(芯去り材)　▪桧(芯去り材)　▪

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキホッパ増設工事		
図面名称	汚泥脱水機棟 特記仕様書-4		
図面番号	A-04		
縮　尺	―	設計年度	令和 8 年度
甲府市上下水道局			

章	項　目	特記事項
15 章 左官工事		３．モルタル塗り
	3.2 材　料	モルタル：　▪現場調合材料　▪既調合材料
		既製目地：　▪適用　▪不適用
	3.2 材　料	既製目地の形状寸法等：　▪図示　▪
	3.5 工　法	床の目地：　▪設ける　▪設けない
		工法：　※押し目地　▪切り目地　▪
		外壁タイル下地モルタルの接着力試験：　▪行う　▪行わない
		６．仕上塗材仕上げ
	(6.2) 材　料	◎薄付仕上塗材の施工箇所：　⊙図示　▪
		材料の防火指定：　▪無　▪有（

種類（呼び名）	仕上げの形状	工 法
▪外装薄塗材Ｓｉ	▪砂壁状▪ゆず肌状	吹付け
	▪ゆず肌状▪さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪可とう形外装薄塗材Ｓｉ	▪砂壁状▪ゆず肌状	吹付け
	▪ゆず肌状▪さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪外装薄塗材Ｅ	▪砂壁状▪ゆず肌状▪着色骨材砂壁状	吹付け
	▪平たん状▪凹凸状▪着色骨材砂壁状	こて塗り
	▪ゆず肌状▪さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪可とう形外装薄塗材Ｅ	▪砂壁状▪ゆず肌状	吹付け
	▪平たん状▪凹凸状	こて塗り
	▪ゆず肌状▪さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪防水形外装薄塗材Ｅ	▪ゆず肌状▪さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
	▪凹凸状	吹付け
▪外装薄塗材Ｓ	▪砂壁状	吹付け
▪内装薄塗材Ｃ	▪凹凸状	吹付け
▪内装薄塗材Ｌ	▪平たん状▪凹凸状	こて塗り
	▪ゆず肌状▪さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪内装薄塗材Ｓｉ	▪砂壁状じゅらく▪ゆず肌状	吹付け
▪内装薄塗材Ｅ	▪平たん状▪凹凸状	こて塗り
	▪ゆず肌状▪さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪内装薄塗材Ｗ	▪京壁状じゅらく▪ゆず肌状	吹付け
▪内装薄塗材Ｗ(調湿形)	▪平たん状▪凹凸状	こて塗り

◎厚付仕上塗材の施工箇所：　▪図示　▪

材料の防火指定：　▪無　▪有（

種類（呼び名）	仕上げの形状	工 法
▪外装厚塗材Ｃ	▪吹放し▪凸部処理	吹付け
	▪平たん状▪凹凸状▪ひき起し▪かき落し	こて塗り
▪外装厚塗材Ｓｉ	▪吹放し▪凸部処理	吹付け
▪外装厚塗材Ｅ	▪平たん状▪凹凸状▪ひき起し	こて塗り
	▪平たん状▪凹凸状▪ひき起し	ﾛｰﾗｰ塗り
▪内装厚塗材Ｃ	▪吹放し▪凸部処理	吹付け
	▪平たん状▪凹凸状▪ひき起し▪かき落し	こて塗り
▪内装厚塗材Ｌ	▪平たん状▪凹凸状▪ひき起し▪かき落し	こて塗り
▪内装厚塗材Ｇ	▪平たん状▪凹凸状▪ひき起し▪かき落し	こて塗り
▪内装厚塗材Ｓｉ	▪吹放し▪凸部処理	吹付け
▪内装厚塗材Ｅ	▪平たん状▪凹凸状▪ひき起し	こて塗り
	▪平たん状▪凹凸状▪ひき起し	ﾛｰﾗｰ塗り

◎複層仕上塗材の施工箇所：　⊙図示　▪

材料の防火指定：　▪無　▪有（不燃認定品

種類（呼び名）	仕上げの形状	工 法
▪複層塗材ＣＥ	▪凸部処理▪凹凸模様	吹付け
▪複層塗材Ｓｉ	▪ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪複層塗材Ｅ		
▪複層塗材ＲＥ	▪凸部処理▪凹凸模様	吹付け
	▪ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪可とう形複層塗材ＣＥ	▪凸部処理▪凹凸模様	吹付け
	▪ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪複層塗材ＲＳ	▪凸部処理▪凹凸模様	吹付け
	▪ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪防水形複層塗材ＣＥ	▪凸部処理▪凹凸模様	吹付け
⊙防水形複層塗材Ｅ	⊙ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
▪防水形複層塗材ＲＳ		
▪防水形複層塗材ＲＥ		

耐候性：　⊙耐候形3種　▪

上塗材溶媒：　▪溶剤系　▪弱溶剤系　⊙水系　▪

上塗材樹脂：　▪ｱｸﾘﾙ系　▪ｼﾘｶ系　⊙ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　▪ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ系　▪ふっ素系

上塗材外観：　⊙つやあり　▪つやなし　▪ﾒﾀﾘｯｸ　▪

防水形の増塗材の適用：　▪する　⊙しない

章	項　目	特記事項
15 章 左官工事		７．マスチック塗材塗り
	7.2 材　料	種別：　▪A種　▪B種
		１０．しっくい塗り
	10.1 一般事項	しっくいの下地：　※標準仕様書15.10.1による　▪図示
	10.2 材　料	しっくい：　▪現場調合材料　▪既調合材料(種類等:　　)
	10.3 調合及び塗厚	既調合しっくいの各層の塗厚：　※表15.10.1及び表15.10.2による　▪図示
		現場調合しっくいの各層の塗厚：　※表15.10.3及び表15.10.4による　▪図示
	10.4 工　法	既調合しっくいの上塗り仕上げ：　▪なで切り仕上げ　▪パターン仕上げ
		１１．こまい壁塗り
	11.2 材　料	土壁用のり：　▪ふのり　▪つのまた　▪ぎんなんそう　▪粉末海藻　▪図示
		大津壁用のり：
		▪ふのり　▪つのまた　▪こんにゃくのり　▪にかわ　▪合成高分子系混和剤　▪図示
		色砂：　▪天然砂　▪岩石の砕砂　▪人工着色砂　▪
	11.3 調　合	下塗りの調合：　※表15.11.2による　▪図示
	11.4 塗　厚	塗厚：　※表15.11.8による　▪図示
	11.5 工　程	工程の種別：　※A種　▪B種
	11.7 土物仕上げ	工法の種類：　▪土物仕上げ工法(・木ごね土物１工法　▪木ごね土物２工法)
		▪土物仕上げ工法(・のりさし土物工法　▪のりごね土物工法)
		▪砂壁仕上げ工法　▪切返し仕上げ工法
		ちりじゃくり：　▪図示　▪
	11.8 大津仕上げ	工法の種類：　▪普通大津仕上げ工法　▪大津みがき仕上げ工法
		１２．ロックウール吹付け
	12.2 材　料	ﾛｯｸｳｰﾙのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：　※F☆☆☆☆　▪F☆☆☆　▪
		接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：　※F☆☆☆☆　▪F☆☆☆　▪
	12.3 配合及び密度等	吹付け厚さ：　▪図示　▪30㎜　▪25㎜　▪20㎜　▪
16 章 建具工事		１．共通事項
	1.3 防火戸	防火戸の指定：　▪図示　▪
		▪防火戸等の自動閉鎖装置は、日本建築センター評定品とする。
	1.4 見本の制作等	建具見本の制作：　▪必要　▪不要
		仮組の実施　　：　▪行う　▪行わない
	1.6 その他	防犯建物部品の適用：　▪図示　▪適用　▪適用しない
		２．アルミニウム製建具

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法（mm）
▪A種　▪B種	S-4	A-3	W-4	70
▪C種　▪D種	S-5			
▪E種	S-6	A-4	W-5	100

2.2 性能及び構造	防音ドアセット、サッシの適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
	遮音性の等級：　▪T-1　▪T-2　▪T-3　▪T-4
	断熱ドアセット、サッシの適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
	断熱性の等級：　▪H-1　▪H-2　▪H-3　▪H-4　▪H-5
2.3 材　料	防虫網の適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
	網の材種：　※合成樹脂製　▪ｽﾃﾝﾚｽ製　▪ｶﾞﾗｽ繊維入り合成樹脂製
	形式　　：　▪外面納まり可動式　▪外面納まり固定式　▪内開き
2.4 形状及び仕上げ	建具枠の見込：　▪図示　▪70　▪100　▪
	外部に面する建具の表面処理：　▪BB-2種
	屋内の建具の表面処理　　：　▪C-1種　▪
	表面色：　▪標準色　　▪特注色
	引違い建具落下防止機構：　▪採用する　▪採用しない
	水切り板：　▪取付ける　▪取付けない　▪図示
	ぜん板　：　▪取付ける　▪取付けない　▪図示
	結露水の処理方法：　▪図示　▪
2.5 工　法	内付け建具：　▪図示　▪

３．樹脂製建具

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法（mm）
▪A種　▪B種	S-4		W-4	70
▪C種　▪D種	S-5	A-4	W-5	
▪E種	S-6			

3.2 性能及び構造	防音ドアセット、サッシの適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
	遮音性の等級：　▪T-1　▪T-2
	断熱ドアセット、サッシの適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
	断熱性の種別：　▪H-4　▪H-5　▪H-6　▪H-7　▪H-8
	ガラスの形式：　※複層ｶﾞﾗｽ　▪単層ｶﾞﾗｽ　▪三重ｶﾞﾗｽ　▪
3.3 材　料	
3.4 形状及び仕上げ	建具の表面色：　▪標準色　▪特注色
	水切り板：　▪取付ける　▪取付けない
3.5 工　法	ぜん板　：　▪取付ける　▪取付けない

章	項　目	特記事項
16 章 建具工事		４．鋼製建具
	4.2 性能及び構造	性能及び構造：　※JIS規格による　▪
		外部に面する鋼製建具の耐風圧性能：　⊙S-4　▪S-5　▪S-6　▪
	4.4 形状及び仕上げ	鋼板類の厚さ：　※表16.4.2による　▪図示　▪
		防音ドアセット、サッシの適用：　▪適用　⊙適用しない　▪図示
		遮音性の等級：　▪T-1　▪T-2　▪T-3　▪T-4
		耐震ドアセットの適用：　▪適用　⊙適用しない　▪図示
		面内変形追随性の等級：　▪D-1　▪D-2　▪D-3
		５．鋼製軽量建具
	5.2 性能及び構造	性能及び構造：　※JIS規格による　▪
		簡易気密型ドアセットの適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
		気密性：　▪A-1　▪
		水密性：　▪W-1　▪
		耐震ドアセットの適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
		面内変形追随性の等級：　▪D-1　▪D-2　▪D-3
	5.3 材　料	鋼板の種別：　▪ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼板　▪ｶﾗｰ鋼板　▪ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　▪図示　▪
		召合わせ、縦小口色み板等の適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
		材質：　※鋼板　▪ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　▪ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出型材　▪
	5.4 形状及び仕上げ	鋼板類の厚さ：　▪図示　▪0.6㎜　▪1.5㎜(ｽﾃﾝﾚｽ鋼板)　▪1.6㎜　▪2.3㎜　▪
		６．ステンレス製建具
	6.3 材　料	性能及び構造：　※JIS規格による　▪
		ステンレス鋼鈑の材質：　※SUS304,430J1L,430　▪SUS304　▪SUS430　▪
		表面仕上げ：　※HL　▪鏡面　▪ﾊﾌ(　　)　▪
	6.5 工　法	曲げ加工：　▪普通曲げ　▪角出し曲げ
	7.2 材　料	７．木製建具
		建具材の加工、組立て時の含水率の種別：　※A種　▪B種
		▪フラッシュ戸の心材の中骨、上下桟及び中桟には空気穴を適正に設ける。
		合板類の適用：　▪適用　▪適用しない　▪図示
		種類：　ﾗﾜﾝ合板　▪ｼﾅ合板　▪図示　▪
		かまち戸の樹種：　▪桧　▪ﾅﾗ　▪ﾗﾜﾝ　▪
		鏡板の樹種：　▪杉　▪桧　▪ｹﾔｷ　▪ﾅﾗ　▪ﾗﾜﾝ　▪
		ふすまの上張りの種類：　▪本鳥の子　▪新鳥の子　▪ビニル紙　▪
		代用樹種等を適用しない箇所：　▪
	7.3 形状及び仕上げ	フラッシュ戸の表面板の厚さ：　※表16.7.6による　▪
		かまち戸の見込寸法：　▪図示　※36㎜　▪
		ふすまの見込寸法　：　▪図示　※19.5㎜　▪
		戸ぶすまの見込寸法：　▪図示　※30㎜　▪
		紙貼障子の見込寸法：　▪図示　※30㎜　▪
	7.4 工　法	ふすまの工法：　▪Ⅰ型　▪Ⅱ型　▪
		ふすまの縁の仕上げ：　▪図示　▪本漆塗り　▪ｶｼｭｰ塗り　▪ｳﾚﾀﾝ塗装　▪素木　▪
		枠の材料：　▪図示
		くつずりの材料：　▪図示

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキホッパ増設工事		
図面名称	汚泥脱水機棟 特記仕様書-5		
図面番号	A-05		
縮　尺	―	設計年度	令和 8 年度
甲府市上下水道局			

章	項　目	特記事項
16章 建具工事		８．建具用金物
	8.1 一般事項	適用範囲：　▪建具製作所仕様以外の金物（
	8.2 材質、形状及び寸法	金物の種類、材質：　※表16.8.1による　▪ 軸吊りヒンジ：　▪自閉装置付き　▪自閉装置なし ドアクローザのディレードアクション（遅延閉）機能の適用：　▪適用　▪適用しない 戸当り：　▪あおり止め(ﾌｯｸ)付き　▪あおり止め(ﾌｯｸ)付きなし 金属製建具の丁番：　※表16.8.2による　▪ 樹脂製建具の丁番：　※表16.8.3による　▪ 木製製建具の丁番：　※表16.8.4による　▪
	8.3 取付け施工	ドアハンドル類の取付け位置：　▪FL+900　▪FL+1,000（特記なき限り）　▪図示　▪ クレセント類の取付け位置：　▪窓高さの1/2高さ（高窓は協議による）　▪図示　▪
	8.4 鍵	マスターキー： ▪製作する　▪製作しない　▪ﾏｽﾀｰｷｰの製作については施設管理者及び監督員と協議する。 マスターキーの系統：　▪　系統 指定建物錠の防犯性能の適用：　▪する　▪しない 指定建物錠とは、建物の外部出入口用に用いるｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ｼﾘﾝﾀﾞｰ/ｻﾑﾀｰﾝ錠が該当 耐ピッキング性能　▪5分未満　▪5分以上　※10分以上 耐鍵穴壊し性能　▪5分未満　▪5分以上　※10分以上 耐サムターン回し性能　▪なし(5分未満)　※あり(5分以上) 耐カム送り解錠性能　▪なし(5分未満)　※あり(5分以上) 耐こじ破り性能　▪なし(5分未満)　※あり(5分以上) 出荷時のﾏｽﾀｰ鍵本数：　※3本　▪　本 鍵箱の適用：　▪必要　▪不必要
		９．自動ドア開閉装置
	9.2 性能・機構	スライディングドアの開閉方式：　▪図示　▪片引き　▪引分け スライディングドアの開閉性能： ※表16.9.1による　▪SSLD-1　▪SSLD-2　▪DSLD-1　▪DSLD-2 多機能トイレ出入口引き戸の開閉性能：　※表16.9.2による　▪図示 検出装置の性能：　※表16.9.3による　▪図示 戸の開閉方法：　▪図示　▪ センサーの種類：　▪図示　▪ﾏｯﾄｽｲｯﾁ　▪光線ｽｲｯﾁ　▪熱線ｽｲｯﾁ　▪音波ｽｲｯﾁ　▪光電ｽｲｯﾁ ▪ﾀｯﾁｽｲｯﾁ　▪押ﾎﾞﾀﾝｽｲｯﾁ　▪ﾍﾟﾀﾞﾙｽｲｯﾁ　▪多機能便所ｽｲｯﾁ 凍結防止装置：　▪有　▪無
		１０．自閉式上吊り引戸装置
	10.3 性能等	性能：　※表16.10.1による　▪
		１１．重量シャッター
	11.2 形式及び機構	シャッターの種類： ▪図示　▪一般重量ｼｬｯﾀｰ　▪外壁用防火ｼｬｯﾀｰ　▪防煙ｼｬｯﾀｰ　▪　屋内用防火ｼｬｯﾀｰ 外壁開口部耐風圧性能：　▪80　▪120　▪ 開閉機能　：　※電動式（手動併用）　▪手動式　▪ 危害防止装置の設置箇所：　▪図示　▪座板底面　▪ 管理用シャッターのシャッターケース：　※図示　▪設ける　▪設けない
	11.3 材　料	スラット等鋼板の種類：　▪塗装溶融亜鉛めっき鋼板　▪溶融亜鉛めっき鋼板　▪ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　▪ 溶融亜鉛めっきの付着量：　▪Z12(F12)　▪
		１２．軽量シャッター
	12.2 形式及び機構	開閉形式　：　※手動式　▪電動式（手動併用）　▪ 〈開閉形式〉：　※手動式　▪電動式（手動併用）　▪ 耐風圧性能：　▪50　▪80　▪120　▪ スラット等鋼板の種類：　▪塗装溶融亜鉛めっき鋼板　▪ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ▪塗装溶融亜鉛−5%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき鋼板　▪ｱﾙﾐ押出型材 溶融亜鉛めっきの付着量：　▪Z06(F06)　▪AZ90　▪ 〈パイプの材質〉：　▪ｽﾃﾝﾚｽ　▪ｽﾁｰﾙ　▪ 〈パイプ径〉　：　▪図示　▪13㎜　▪16㎜　▪19㎜　▪ 〈パイプ間隔〉：　▪図示　▪70㎜　▪ 〈格子間隔〉　：　▪図示　▪500㎜　▪
	12.4 形状及び仕上げ	スラットの形状：　▪ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形　▪ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ形
		１３．オーバーヘッドドア
	13.2 形式及び機構	セクション材料による区別：　▪図示　▪下表による

ｾｸｼｮﾝ材料による区別	開閉方式による種類	収納形式による区分	ガイドレールの材料
▪ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ	▪ﾊﾞﾗﾝｽ式	▪ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形	▪鋼製
▪ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ	▪ﾁｪｰﾝ式	▪ﾊｲﾘﾌﾄ形　▪ﾛｰﾍｯﾄﾞ形	▪ｽﾃﾝﾚｽ製
▪ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	▪電動式	▪ﾊﾞｰﾁｶﾙ形	

耐風圧性能：　▪50　▪75　▪100　▪125

章	項　目	特記事項
16章 建具工事		１４．ガラス
	14.2 材　料	ガラスの種類：　▪図示　▪ ガラス留め材　金属性製建具用パテはJISA5752による。

建具の種類	種類・材質
▪ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	▪ｼｰﾘﾝｸﾞ材　※ｶﾞｽｹｯﾄ　▪ﾊﾟﾃ材(▪1種　▪2種)
▪鋼　製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材　▪ﾊﾟﾃ材(▪1種　▪2種)
▪ｽﾃﾝﾚｽ製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材　▪ﾊﾟﾃ材(▪1種　▪2種)
▪木　製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材　▪ﾊﾟﾃ材(▪木製用　▪　)

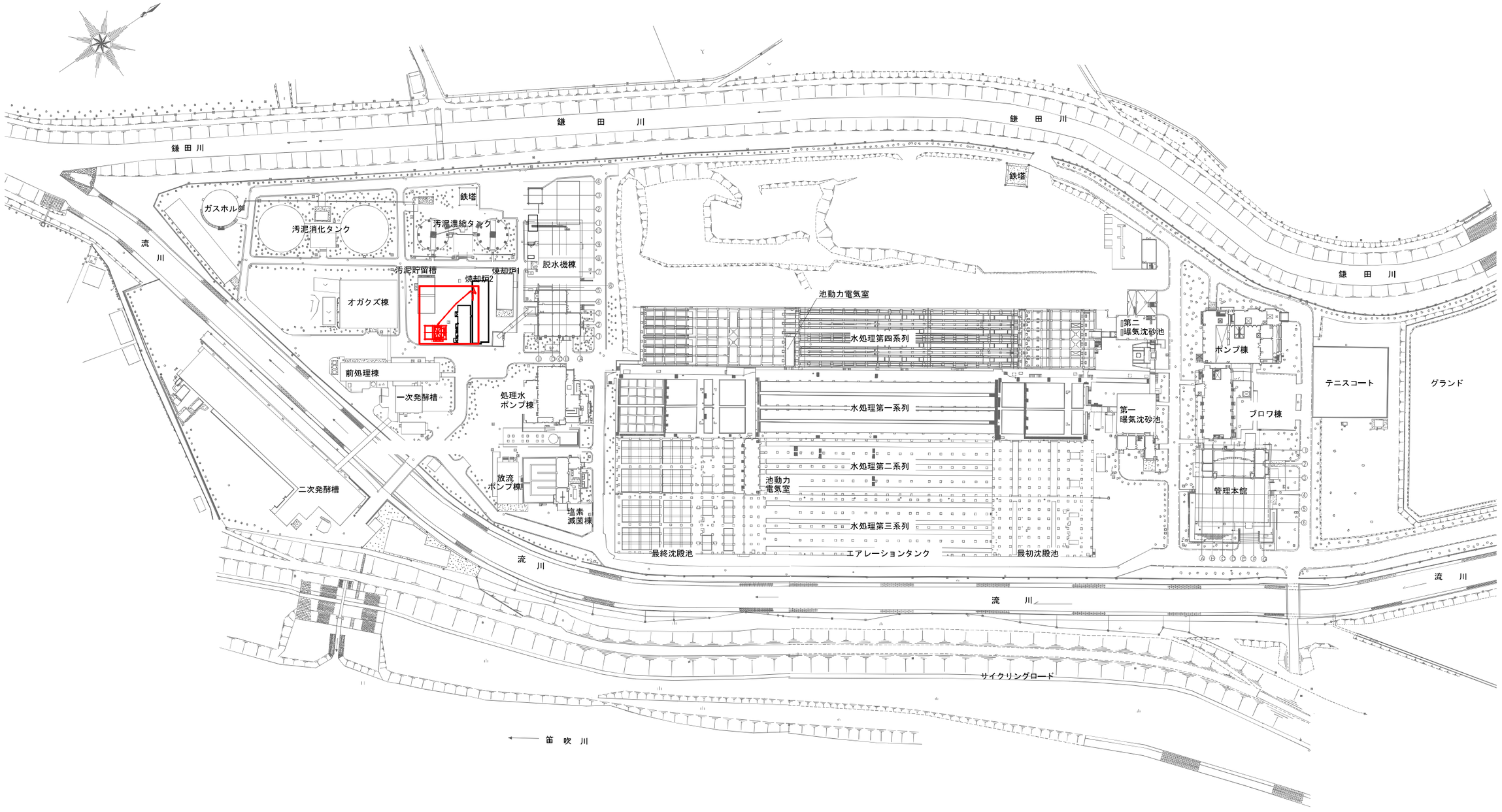
14.3 ｶﾞﾗｽ溝の寸法、形状等	ガラス溝の大きさ：　※製造所仕様による　▪図示
14.5 ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ積み	表面形状　：　▪図示　▪ﾌﾟﾚｰﾝ　▪梨地　▪ｶｽﾐ　▪ 寸法、厚み：　▪図示　▪190x190x95　▪145x145x95　▪ 壁用金属枠：　▪図示　▪ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　▪ｽﾁｰﾙ製　▪ｽﾃﾝﾚｽ製　▪ 補強剤　：　▪図示　▪ 化粧目地の色：　▪白　▪ｸﾞﾚｰ　▪黒　▪ シーリング材：　▪ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系　▪ｳﾚﾀﾝ系　▪ｼﾘｺﾝ系　▪ 金属製化粧カバー：　▪図示　▪ 壁用金属枠の留付間隔(木造下地)：　▪製造所の仕様　▪450㎜　▪300㎜ 風圧力に対応した工法：　▪ 目地幅：　※標準仕様書による　▪ 伸縮調整目地の位置：　※標準仕様書による　▪ 伸縮調整目地の仕上：　※標準仕様書による　▪
17章 カーテンウォール工事	1.3 性　能	１．共通事項 耐風圧性能：　▪ 耐震性能　：　▪ 水密性能　：　▪ 気密性能　：　▪ 耐火性能　：　▪ 耐温度差性能：　▪ 遮音性能　：　▪ 断熱性能　：　▪ 性能の確認方法：　▪
		２．メタルカーテンウォール
	2.2 材　料	金属材料の種類：　▪ｱﾙﾐﾆｳﾑ　▪ｽﾁｰﾙ　▪ メタルのシーリング材：　▪ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系　▪ｳﾚﾀﾝ系　▪ｼﾘｺﾝ系　▪ ガラスのシーリング材：　▪ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系　▪ｳﾚﾀﾝ系　▪ｼﾘｺﾝ系　▪ ガラスの構造ガスケットの形状、寸法：　▪図示　▪ 断熱材：　▪図示　▪
	2.3 形状及び仕上げ	製品の寸法許容差：　▪図示　※標準仕様書による　▪ 製品の見え掛かり部分の仕上げ：　▪図示　▪ ガラス溝の寸法、形状：　▪図示　※標準仕様書による　▪
	2.5 取付け	ファスナー金物の取付位置、寸法許容差：　▪図示　※標準仕様書による　▪ カーテンウォール部材の取付位置、寸法許容差：　▪図示　※標準仕様書による　▪
		３．ＰＣカーテンウォール
	3.2 材　料	コンクリートの種類・品質：　▪図示　※標準仕様書による　▪ 鉄筋の種別：　▪図示　※SD295A　▪SD345　▪ 補強鉄線の寸法：　▪図示　▪φ3.2x100x100　▪φ3.2x50x50　▪ シーリングの種類：　▪図示　▪ 耐火目地材：　▪図示　▪ 断熱材　：　▪図示　▪ サッシ枠、ゴンドラ用ガイドレール　：　▪図示　▪
	3.3 形状及び仕上げ	寸法許容差：　▪図示　※標準仕様書による　▪ カーテンウォールの仕上げ：　▪図示　※標準仕様書による　▪ 構造ガスケット：　▪図示　※標準仕様書による　▪
	3.4 製　作	鉄筋の配筋：　▪図示　▪
	3.5 取付け	取付け位置の寸法許容差：　▪図示　※標準仕様書による　▪
	3.6 ガラスの取付け	構造ガスケットの取付：　▪図示　▪

章	項　目	特記事項
18章 塗装工事		１．共通事項
	1.3 材　料	塗料の防火材料の指定：　▪図示　⊙無　▪有（
		２．素地ごしらえ
	2.1～2.7 ***素地ごしらえ	

塗装面の種類	種　別
木部（不透明塗料塗り部）	※A種　▪B種
木部（透明系塗料塗り部）	▪A種　※B種
鉄鋼面	▪A種　※B種　※C種
亜鉛めっき鋼面	▪A種　⊙B種
モルタル、プラスター面	▪A種　※B種
コンクリート、ＡＬＣパネル面	▪A種　※B種
押出成形セメント板	▪A種　※B種
せっこうその他のﾎﾞｰﾄﾞ	継目処理工法の場合：　※A種　▪B種 その他の場合：　▪A種　※B種

	３．錆止め塗料塗り
3.2 塗料種別	鉄鋼面(上塗りEP-Gの場合)：　▪A種　※B種 亜鉛めっき鋼面(上塗りSOPの場合)：　※A種　▪B種
3.3 錆止め塗料塗り	鉄鋼面見え掛り部分(上塗りSOP、及びEP-Gの場合)：　※A種　▪B種 鉄鋼面見え隠れ部分(上塗りSOP、及びEP-Gの場合)：　▪A種　※B種 亜鉛めっき鋼面鋼製建具面(上塗りSOP、及びEP-Gの場合)：　※A種　▪B種 亜鉛めっき鋼面鋼製建具面以外(上塗りSOP、及びEP-Gの場合)：　▪A種　※B種
	４．合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）
4.2 木部***塗り	種別（外部）：　※A種　▪B種 種別（内部：多孔質広葉樹以外）：　▪A種　※B種 種別（内部：多孔質広葉樹）　：　▪A種　▪B種
4.3 鉄鋼面***塗り	種別：　▪A種　※B種
	５．クリヤラッカー塗り（ＣＬ）
5.2 ｸﾘﾔﾗｯｶｰ塗り	種別：　▪A種　※B種
	６．アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）
6.2 ｱｸﾘﾙ塗り	種別：　▪A種　※B種
	７．耐候性塗料塗り（ＤＰ）
7.2 鉄鋼面耐候性塗り	上塗り塗料の等級：　▪1級　▪2級　▪3級
1.3 亜鉛めっき耐候性塗り	上塗り塗料の等級：　⊙1級　▪2級　▪3級
7.4 ｺﾝｸﾘｰﾄ面塗り	種別：　▪A種　▪B種　▪C種
	８．つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ−Ｇ）
8.2 ｺﾝｸﾘｰﾄ面塗り	コンクリート面：　▪A種　※B種 モルタル面：　▪A種　※B種 プラスター面：　▪A種　※B種 せっこうボード面：　▪A種　※B種 その他ボード面：　▪A種　※B種
8.4 鉄鋼面塗り	種別：　▪A種　※B種
	９．合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）
9.2 合成樹脂塗り	種別：　▪A種　※B種
	１０．ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）
10.2 ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り	種別：　▪A種　※B種
	１１．ステイン塗り
11.2 ｽﾃｲﾝ塗り	塗料の種別：　▪図示　▪
	１２．木材保護塗料塗り（ＷＰ）
12.2 木材保護塗料塗り	種別：　▪A種　※B種

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキホッパ増設工事		
図面名称	汚泥脱水機械 特記仕様書-6		
図面番号	A-06		
縮　尺	―	設計年度	令和 8 年度
甲府市上下水道局			

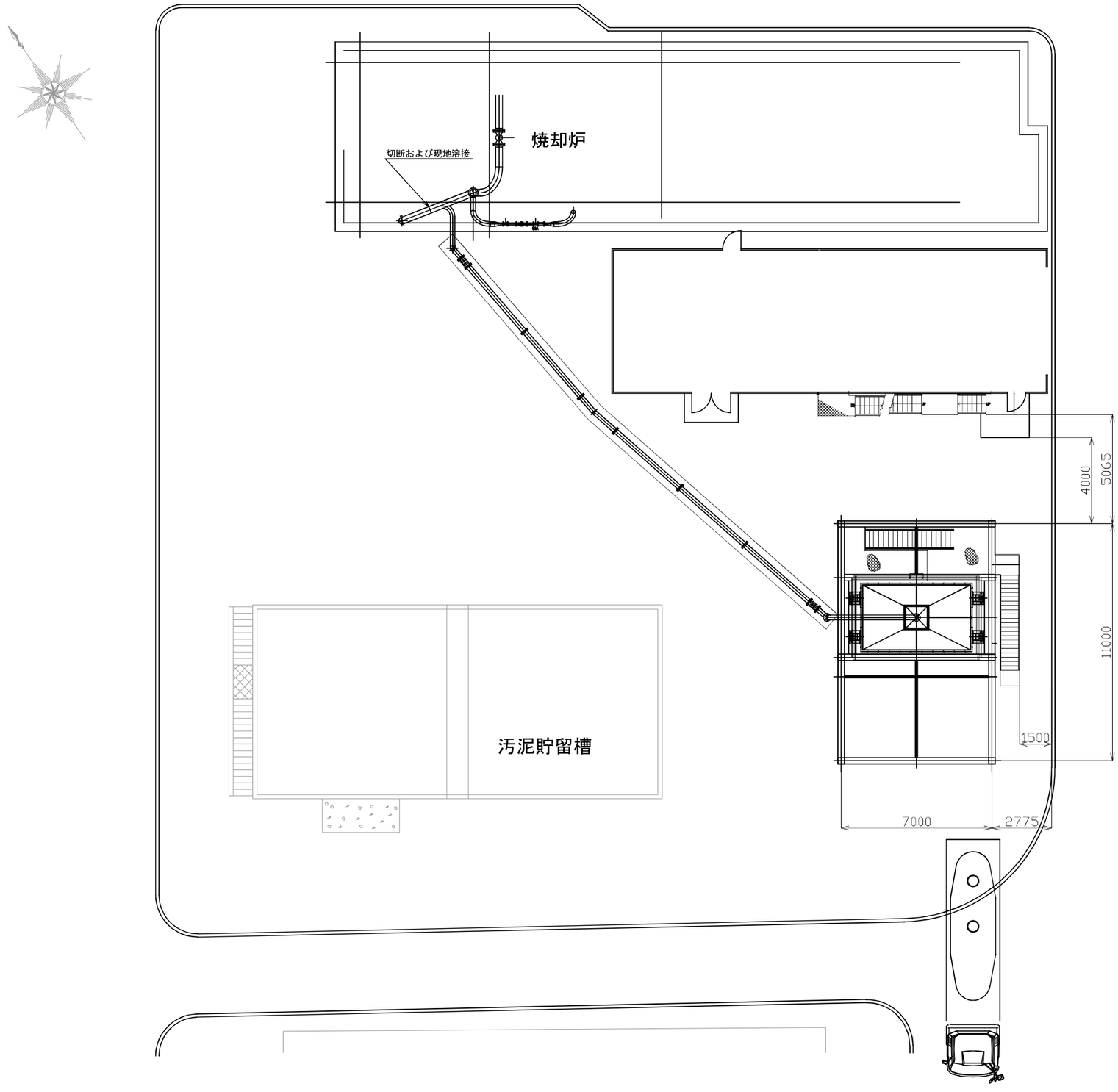


全 体 平 面 図 S=1/1000

注 記

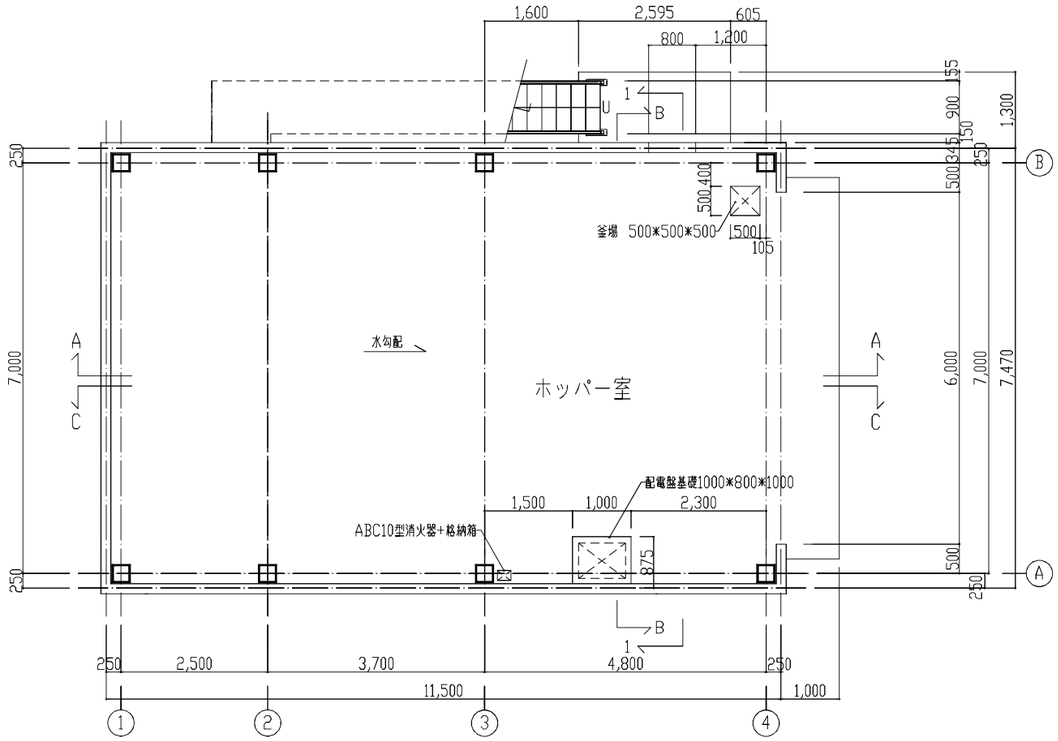
1. ▨ は今回対象範囲を示す。
2. 特記の無いものは既設を示す。

甲 府 市 浄 化 セ ン タ ー			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキホッパ増設工事		
図面名称	全 体 平 面 図		
図面番号	A-07		
縮 尺	A1:1/1000 A3:1/2000	設計年度	令和 8 年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

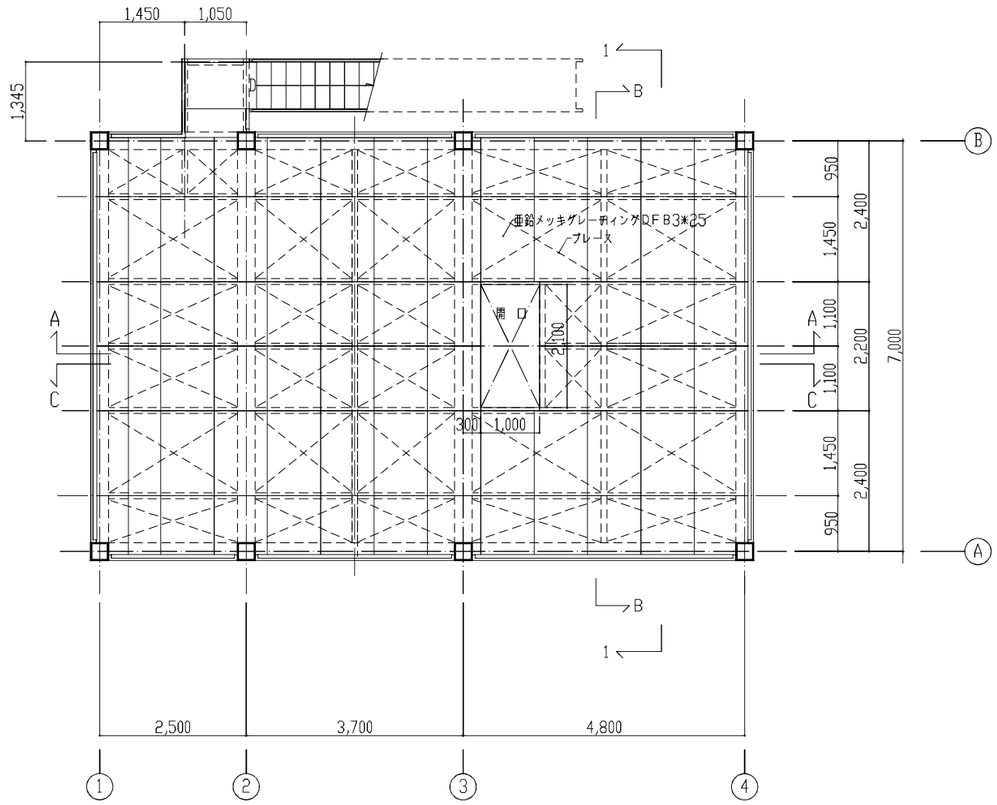


設 備 平 面 図

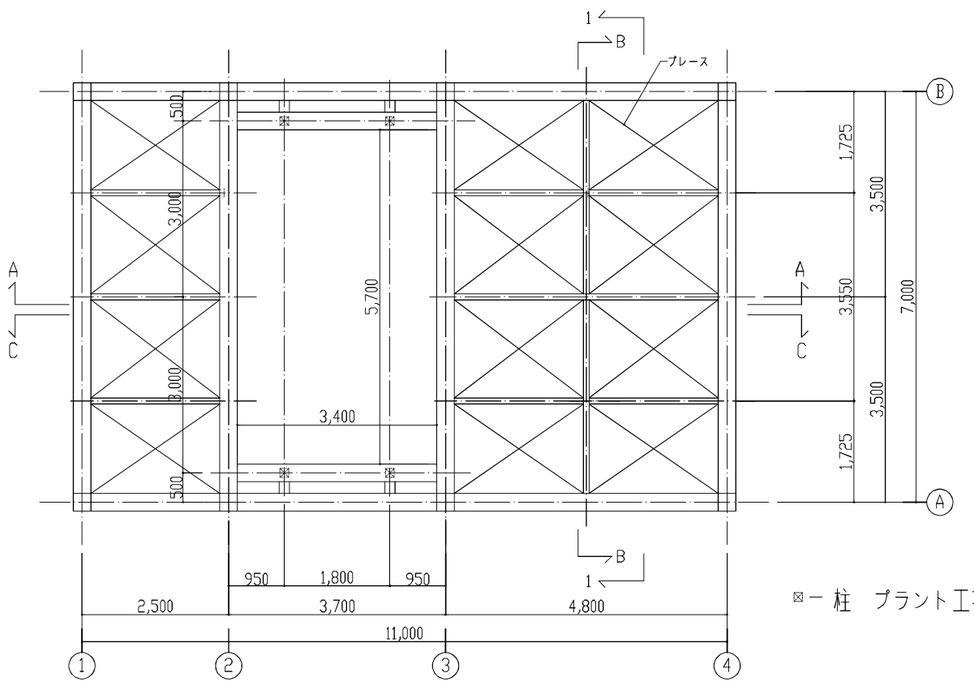
甲 府 市 浄 化 セ ン タ ー			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキホッパ増設工事		
図面名称	配置図		
図面番号	A-08		
縮　尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和 8 年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



1 階 平 面 図　　S = 1 : 50



GL+4,870 伏 図　　S = 1 : 50



⊠ー 柱　プラント工事

GL+8,800 伏 図　　S = 1 : 50

内 部 仕 上 表

ホッパー室	CH = 4600~4650 FL = ±0~50
天 井	垂鉛メッキグレーチングDFB3*25
見 切	——
壁	——
腰	コンクリート打放し（B） 防水型複層塗E　H=850~900
巾 木	コンクリート打放し下地 H=200 床用塗料
床	コンクリート 金コテ 床用塗料
備 考	鉄部亜鉛メッキDP

甲 府 市 浄 化 セ ン タ ー			
工事名称	甲府市浄化センター 脱水ケーキホッパ増設工事		
図面名称	汚泥脱水機棟 平面図		
図面番号	A-9		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和 8 年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			